

第 34 回日本保健医療行動科学会学術大会のご案内

「皆さんで、考えあい、感じあいましょう」

第 34 回大会長 梓川 一（東大阪大学）

皆さん、こんにちは。次回の大会は、来年6月に古都奈良で開催します。皆さんの奈良の印象やイメージはいかがでしょう。奈良県民の梓川の思いを染み込ませてはいけないのですが、奈良もなかなかいいところですよ。例えば。。。「古い町並みが多く残されています。私も、ふらりと散策しています」「お寺や神社が自然のなかにたたずんでいます。風情と風土を感じます」「高い建物がありません。奈良は山々にぐるりと囲まれて、やっぱり盆地です」「古くから代々奈良に住んで来られた方々は伝統を守っています」などなど。。。このような奈良のなかでも、このたびの学会会場は、かの有名な大仏さん（「だいぶつあん」（関西弁））がお住まいの東大寺のすぐそばです、裏手には若草山や春日大社がかまえています。どうしてもここで開催したかったのです。皆さんにおかれましては、学会に参加、そして奈良も堪能、して頂きたいのです。

近頃、「学会って何かな」と問うてみる場合があります。もちろん、研究の成果を発表したり、新しい研究や実践を学問的・科学的な見地から探索でき、情報交換もできる場であります・・・こういうところにこそ学会が社会から求められ、期待される使命があります。けれども、それだけではないように思うのです。年を重ねてきて、おそらく私が学会に求めるところが年々変わってきていると思うのですが・・・。まず、ついつい「出会い」を求めているのです。学会には学会ならではの素敵な出会いがあります。新しい研究との出会い、既存研究を問い直す研究との出会い、他の専門領域の研究との出会いに加えて、同じ世界に生きる方との出会い、違う世界に生きる方との出会い、そこに価値観の再認識があり、そして変容していく新しい自分との出会いなど、数々です。もう一つは、学会の「ムード」を味わうことです。これは人それぞれの世界観とフィーリングがあると想像します。大会の開催地から感じる地域性、思いが込められた大会のテーマや内容そして展開、ご当地の食や空気そしてアートなどがあり、ここにレベルや比較は無縁なのです。何かを感じることに、感じあうこと、ここを大切にしたいのです。

悠久の都で皆さんとともに過ごしながら、「当事者を考えあう、感じあう」三日間を創りだしていくことを目指します。これまでの大会からの流れやつながりを引き継ぎ、何か新しい生み出しへ向けて、皆さんとともに取り組んでいきたいのです。梓川が取り組むべきテーマとして、勇気をもって取りあげ、そして受けとめています。学会員の皆さまの多くは、専門職、研究者、実践者、教育者であります。さらに例えば、患者さんたち、広く市民の方々・・・できるだけ多方面のたくさんの方々に参加・参画して頂き、それぞれの立場や状況からの発信を受けとめあい、検討を重ねて、何かを創りだしていきたいのです。奈良大会での最終の到達点として、何か成果を提示できないかもしれません。でも、それもいいのではないかと思います。そもそも対人援助の研究や実践や活動や教育を、成果としてすべて形や数値に可視化できるものでしょうか。「すべての人々が当事者として、当事者を考えあう・感じあう」、ここに正面から本気で問うていく大会に徹していきます。

極めて手前味噌ですが、大会長の私にとって・・・、とてもアクティブな議論を重ねて下さる実行委員メンバーは、大ファンであり、ともに誇れる大切な存在です。次大会に向けて実行委員会は着実に歩みだし、この大会テーマとそこからの展開に、毎回、苦しみ・悩み・揺れて・なにより楽しみ、そこからともにいるゆえのエネルギーが湧いています。来年6月には、ぜひ奈良にお越し下さい。奈良大会ならではの「出会いとムード」を感じて下さい。皆さんにお会いできますことを心からお待ちしています。